

「農政改革の検討方向」及び「米政策に関するシミュレーション結果(第1次)」
に関する意見交換会概要

日時：平成21年5月15日(金) 15:00～17:30

場所：消費・安全部 地域第三課会議室

参加人数：9名

出席者（生産者）

米は農協には出荷せず、商人、消費者などに販売している。肥料などの出費がかさみ収入が増えず、生活はいっこうに良くならない。米が余っている中で、MA米の輸入はやめるべき。これまで転作に協力してきたが、米価は下がり続けている。今の米価では米作りを続けていくことは苦しい状況。18,000円/60kgで売れなければ、やっていけない。水田フル活用に期待しているが、価格保障も考えてもらいたい。農業従事者は高齢化しており、国は企業参入と言うが、企業が参入してくれば、我々のような零細な家族農業は潰されてしまう。このままでは駅前のシャッター街と同じになってしまう。

耕作放棄地がいっぱいあり、農地が農業をやらない人に渡っていくのは良くない。農地を手放すと農業者年金がカットされる問題があるので、そのあたりを考慮してもらいたい。米粉への助成は色々な条件が付いて、やりたくてもやりにくくなっている。

出席者（消費者）

「生産条件不利補正対策（ゲタ）」など、とても消費者として理解できない用語がいっぱいあるので、施策を具体的に分かりやすく紹介した小冊子などが必要。

重大な問題として、肥料確保対策に触れられているが、本当に重大な問題であり、真剣に検討すべき。我が国は肥料の多くを外国からの輸入に頼っている。米は100%自給と言うが肥料がないと育たない。中国が日本にリンの供給を停止したと報道されていたが、もっと肥料対策の重要性を認識すべき。

低炭素社会に向けた農業の貢献について盛り込んだ方が良いのではないか。

栄養バランスの面からも、炭水化物を摂取する必要があり、米粉や小麦、大豆を作る必要がある。

シミュレーションについては、今後、人口が減っていけば、米の消費量も落ちていくので、生産調整強化のシナリオが一番良いと思う。

農林水産省

栄養バランスの面からも米を中心とした日本型食生活を実現することが重要。米粉の活用等で栄養バランスの改善を図っていくこともできると思う。

シミュレーションでは、人口減少を織り込んでいるが、生産調整強化のシナリオだと価格が高止まりするので消費量の減少幅はより大きくなる。 昨年の小麦価格の高騰時に、小麦製品と比較して米が相対的に安くなり、米の消費量が増えたことを見ても、米の消費は価格と関係していると考えられる。

農林水産省

シミュレーションは現在の政策を前提としているが、結果として中長期的に米価が下がるようであれば、対策が必要となるであろう。 その場合でも、最初から所得保障するというのではなく、まずは転作の実施者に対するインセンティブを与えることで、生産調整をしっかりと行うことが重要。

出席者（生産者）

飼料米を作付けしているが、先が見えない。高齢化が進み、今後4～5年は良いが、その後が問題。60歳で定年退職した者を狙って就農につなげ、当座助けてもらうことができないか。そのようなソフト面での事業も考えてもらいたい。

高卒や大卒の若者が新規就農出来るようにすることが必要。特に米は収入が少なく、後継者の確保が難しい。米価は高ければ良いと思うが、経費がかなり上がっている。とにかく、農地を草にしないように頑張っている。

出席者（食品企業）

担い手の人が夢を持てる支援ができるかがポイント。特に、自給率の低い大豆、小麦に対して支援が必要。消費者は安全性、履歴に関心がある。また、環境保全型農業も注目されている。

大豆など自給率が低い作物にもっと力を入れるべき。水田転作では助成がもらえるが、畑作では補助がでない。このようなケースでも支援してもらいたい。

出席者（生産者）

これまで政策で農地の団地化やブロックローテーションを進めてきたが、逆に専業農家は減っているのではないか。

本当に農業だけで生きている経営者とそうでない者を同じ扱いにするのはおかしい。そのような施策では、後継者は絶対に育たない。

農業で生活が成り立つ政策を望む。新規就農の問題にしても、定年退職して従事する者

と若者とを分けて対応しないとイケない。

出席者（生産者）

昨年の原油高騰時に軽油補助があったが、生産調整に協力しているか否かに関係なく補助されている。まじめに取り組んでいる者が報われるような施策であるべき。また、書類が煩雑であり、判子をつくだけで補助が受けられるようにならないか。

とにかく、自立できる農業が実現できる政策を行って欲しい。

出席者（食品企業）

不景気の中、消費者が低価格志向となっている。消費者ニーズにあったものが今、求められており、これに対応するのが流通業者の仕事。

米の販売量が減少している。大型店では薄利多売で米を販売しており、我々としては苦しい状況。

生産者の方々が米の価格維持を求められている点は理解できるが、米は高価格品と併せて低価格品も必要。

我々の立場としては、それなりの規模であって、10,000 円や 11,000 円の米価に耐えうるような農業経営を支えるための施策が必要と考える。

出席者（食品企業）

稲作農家を取り巻く状況は非常に厳しい。シミュレーションをしながら政策を作って、もっと広範な意見を聴取すべき。

事故米などの対応を見ると、このような説明会が無意味と思えてしまう。説明会での意見が施策に反映されるようにしてもらいたい。

また、中山間地をどうするかが課題だ。

出席者（消費者）

国産品の良いものは価格的に消費者がいつでも買えるものではないが、以前、高いお茶を飲んだとき、家族の皆がおいしいと言った。発想を転換すれば、ペットボトルを買うより安くなる。米についても直売所で購入した米は家族に好評だった。消費者の購買行動は、若い世代を考えると一律に考えることは難しいが、国産の良いものを買うように変わることとは可能ではないか。

農林水産省

本日は様々な立場から幅広いご意見をいただきましたが、皆様の御意見を踏まえて、農政改革の具体化を進めていきたい。今後は、6月中下旬に特命チームでの議論を再開し、8月を目途に農政改革の基本報告を取りまとめていくこととなる。